



呉市役所
子育て施設課
0823-25-3144

子どもに多い皮膚の病気

令和3年 第249号

暑くなってくると汗をたくさんかくようになります。また、細菌やかびなども増えやすくなることから皮膚のトラブルが増えてきます。今回は子どもに多い皮膚の病気をいくつか紹介します。

身体を
清潔にしよう



あせも かんしん (汗疹)

原因と症状

あせもは、汗のせんがつまり、汗が皮膚の中にたまったためにでてる病気です。汗をかきやすい、ひじの内側・首・膝の裏側などにはゴマ粒くらいまでの小さな水ぶくれができたり、赤い小さなぶつぶつができたりします。

治療と対処法

1番大切なのは、あせもを作らないようにすることです。涼しく風通しのよい環境にし、入浴・シャワー浴をこまめに行ってください。また、小さな子どもは寝ているときにたくさん汗をかきますから衣類は木綿などの吸水性のよい物を使用し、汗をかいたときには着替えるようにしましょう。できてしまったあせもに対してはステロイドの塗り薬やかゆみ止めの飲み薬を使用します。かゆみのひどいときには病院に行きましょう。

ちょっと ひとつこと!

以前はベビーパウダーなどを使用することがありましたが、汗とまじってこびりついてバイキンがつくことがあるので、使用しないほうがよいでしょう。



みずいぼ でんせんせいなんぞくしゅ (伝染性軟属腫)

原因と症状

伝染性軟属腫ウイルスによって引き起こされます。ゴマ粒から米粒の半分くらいまでの小さなぶつぶつができます。ぶつぶつの中央は少し白っぽく見える部分があり、つぶすと白い小さな固まりが出てきます。この固まりの中にたくさんのウイルスが入っています。

治療と対処法

治療の基本はピンセットなどでつまんで取ってしまうことです。その際に痛みを伴うため、痛み止めのシールを1時間くらい貼った後、取ることが行われます。症状自体が軽く、数年たてば自然になおるため、どれだけ広がっても我慢ができるようであれば、様子を見ておくこともあります。ただし、ほかの子どもにうつさないように一緒にお風呂に入るのを避けたり、プールの時などにラッシュガードを着るなどの工夫が必要です。

ちょっと ひとつこと!

人にうつる可能性もあります。自然治癒には数年かかるため早めに病院へ相談されることをおすすめします。



かかないように～

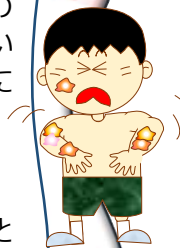
とびひ でんせんせいのうかしん (伝染性膿痂疹)

原因と症状

虫さされや湿疹などのかゆみがあると、そこをひっかいて傷ができます。汁が出るようになると、その部分にブドウ球菌というバイキンがくっついて爆発的に増えます。その増えた細菌から毒が出てきて皮膚をこわしてしまい、水ぶくれが出来てきます。その中にはたくさんのバイキンがいるため、水ぶくれが破れて出てきた汁が、ほかの場所や別の子どものつくと同じような症状を起こしていくため『とびひ』と言われます。

治療と対処法

治療は抗生剤の飲み薬と、塗り薬が基本となりますが、かゆいことが多いためステロイドの塗り薬を併用することもあります。以前は傷があるときにはお風呂に入るのを禁止していましたが、最近では逆にお風呂に入って傷を洗い、その場所にいる細菌を洗い流すほうが有効であると考えられています。



ちょっと ひとつこと!

塗り薬のみで治すことは難しいので、早めに病院に行きましょう



ちょっと ひとつこと!

いぼは、治りにくいことが多く、大きくなってからは本当に苦労しますので、できるだけ早く病院に行きましょう。

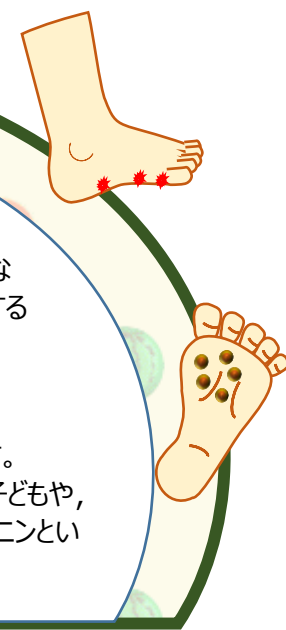
いぼ じんじょうせいゆうぜい (尋常性疣贅)

原因と症状

いぼは、手や足にできる『うおめ』に似たすこし盛り上がった『できもの』です。原因はヒト乳頭腫ウイルスというウイルスで小さなキズからうつります。1つだけポツンとできることもありますが、多発することもあります。

治療と対処法

冷凍凝固といって液体窒素を綿棒などでつける治療が一般的です。しかし、かなり痛く、何度も繰り返さなければいけないため、小さい子どもや、痛みに弱い子どもにはできないこともあります。そういうときには、ヨクイニンという漢方薬を飲み、塗り薬も使って様子を見る場合もあります。



ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>

